

# 飼料流通合理化対策

【令和6年度予算概算決定額 1,820 (2,143) 百万円の内数】

## <対策のポイント>

飼料輸送に携わるトラックドライバーの人材確保や環境負荷軽減のために、**飼料輸送の効率化・標準化に資する実証や県域を越えた国産粗飼料の広域流通体制構築の実証**等の取組に対し支援を行い、**安定的な飼料流通により畜産生産基盤を維持・強化し、国民への畜産物の安定供給を図ります。**

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

○生乳生産量：728万トン→780万トン ○牛肉生産量：33 (48) 万トン→40 (57) 万トン ○豚肉生産量：90 (128) 万トン→92 (131) 万トン  
○鶏肉生産量：160万トン→170万トン ○鶏卵生産量：263万トン→264万トン ※ () は枝肉換算

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 飼料輸送効率化等支援事業

飼料輸送の効率化・標準化に資する実証等の取組を支援します。

- (例) ① 飼料タンク内の在庫を把握し、情報共有するためのIoT機器の導入等の取組  
② 農場内での高所作業の負担を軽減するための飼料タンク蓋遠隔開閉装置の導入や労働環境改善に向けた取組  
③ モーダルシフトに関する取組

### 2. 粗飼料広域流通体制確立事業

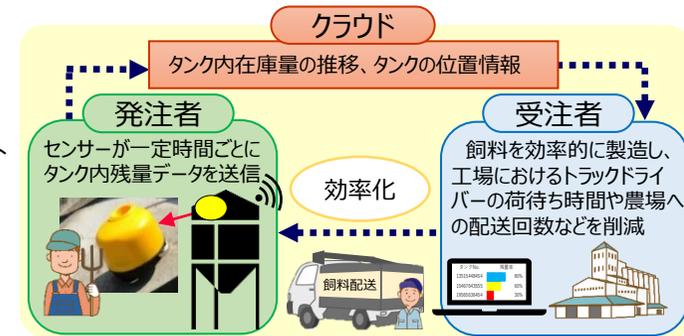
県域を越えた新たな国産粗飼料の広域流通体制を構築する実証等の取組を支援します。

- (例) ① 新たな産地からの国産粗飼料の購入にあたり、従来の産地との輸送コストや飼料品質等を比較検証する取組。  
② 国産粗飼料を一時保管するストックポイント等を活用することにより、発注から供給までの時間の短縮や配送方法を検証する取組。

### 1 飼料輸送効率化等支援事業

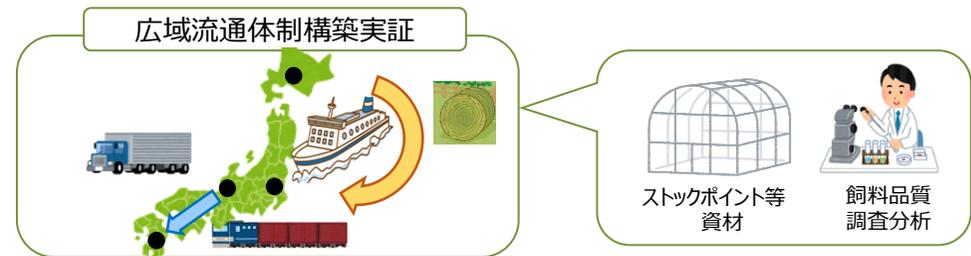
飼料在庫・配送管理による効率化の実証 (例)

飼料流通の効率化・標準化の実証に必要なIoT機器及び飼料タンク蓋遠隔開閉装置の導入・設置経費、モーダルシフト実証経費等を支援  
(補助率：定額、1/2以内)



### 2 粗飼料広域流通体制確立事業

県域を越えた新たな国産粗飼料の広域流通体制を構築するための実証に必要なストックポイント等の設置のための資材費や飼料品質の調査分析に係る経費等を支援。  
(補助率：定額、1/2以内)



## <事業の流れ>

